様式１－６

○毎年度評価
終了評価

令和３年度 プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	**所得向上に繋がる農林水産物・食品の輸出拡大や食品産業の海外展開の促進に関する研究**
研究実施期間	令和２年度～令和４年度
プロジェクト研究の概要	今後、人口減少や高齢化の進展により、国内の食市場は縮小する見込みであるが、一方、世界人口の増加と食生活の変化により、世界の食料需要は増加する見込みであり、我が国の食産業（農林水産業、食品産業）が継続的に発展していくためには、国内需要だけではなく、海外需要も獲得していくことが必要である。 このような中で、令和２年３月に策定された食料・農業・農村基本計画において2030年までに５兆円とされた輸出目標を達成するには、今後の更なる輸出の拡大と食品産業の海外展開及びそれを進める際に不可欠な所得向上等の取組に関する施策の促進を図る必要がある。 このため、我が国の主要な海外市場とみられる国・地域における需要等の動向、国内産地の生産動向、輸出や海外展開によるメリット等について把握するとともに、農林水産物・食品の高付加価値化等を図り、所得の向上につながる取組に関する諸条件等を把握する必要がある。 また、農林水産物の高付加価値化、国際競争力の強化を図っていく上で、新品種、商標、GIなどの知的財産や地域ブランドを活用することにより、他の産品との差別化を図り、国内外の消費者の認知・評価を高めていくことが重要である。 以上のことから、輸出の促進対策や国内における所得向上につながる輸出の取組事例などの分析を行うとともに、知的財産や地域ブランドの活用に関して、取組上の課題、効果、成功要因、消費者への効果的な伝達方法等の分析を行うことにより、農林水産物・食品の輸出促進に資することを目的とする。
評価結果 **○評価会議名及び開催日** 「所得向上等に繋がる農林水産物・食品の輸出拡大や食品産業の海外展開	**（小課題１）輸出に関する研究** 研究資源（研究者）の不足により今年度は研究を実施していない。 **（小課題２）知的財産・ブランドに関する研究** **【評価項目ごとの評価】**（ ）内は３名の委員の投票数を

の促進に関する研究」評価委員会 令和３年３月10日 **○評価委員名** 木立　真直　委員 （中央大学商学部　教授） 廣政　幸生　委員 （明治大学農学部食料環境政策学科　教授） 竹下　広宣　委員 （名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部　准教授） **○評価基準** ・社会的ニーズへの対応 S.非常に大きな意義がある A.大きな意義がある B.意義がある C.意義が小さい D.意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献 S.非常に大きな貢献が見込める A.大きな貢献が見込める B.貢献が見込める C.貢献が小さい D.貢献は見込みがたい ・学術面からみた研究成果の評価 S.学術的に非常に高く評価できる A.学術的に高く評価できる B.学術的に評価できる C.学術的な評価はやや低い D.学術的評価は低い ・研究計画の妥当性 S.非常によい A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない	示す。 ○　社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある（１） A:大きな意義がある（２） ○　政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（１） B:貢献が見込める（２） ○　学術面からみた研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（１） B:学術的に評価できる（２） ○　研究計画の妥当性 A:妥当である（１） B:概ね妥当である（２） ○　研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（１） B:概ね妥当である（２） ○　研究目標の達成度 A:達成度は高い（１） B:概ね達成している（２） **【総合評価】**（　）は３名の委員の投票数を示す。 1:順調に進行しており、問題はない（１） 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（２） **【評価委員からの主な意見】** ○　実施できていない事例調査について実施するとともに、GI等に対する消費者の認識・評価に関する分析について品目による評価の違いを4年度に精力的に行うとのことであり、その成果が大いに期待される。ただ、食品産業は規模、業種、業態、地域などきわめて多様な事業者から構成されており、そのいずれを政策対象とするのか、どのような事業活動（とくに国内農水産業との関連性）を支援するのかなどの検討は必要である。 ○　GIに関して、消費サイドにおける計量的な分析は進んでいるが、その結果を、制約を受けている現地調査の実施とどのように組み合わせ、研究課題を達成するか考えられ、最終的な研究を進められたい。研究課題に即するなら、所得向上に繋がるという、GI、ブランド化のステークホルダーに研究が如何に寄与するかを考慮する必要がある。 ○　非常に興味深い調査を実施されている。分析時間を

D.妥当ではない ・研究資源・実施体制の妥当性 S. 非常に良い A:妥当である B:概ね妥当である C:やや妥当でない D:見直しが必要である ・研究目標の達成度 S.達成度は非常に高い A.達成度は高い B.概ね達成している C.達成度はやや低い D.達成度は低い 【総合評価】 1. 目標を上回った 2. 目標を達成した 3. 目標を下回った 4. 目標を大きく下回った	増やすことで、より確度の高い結果を得る、あるいは、今後検証すべき仮説を得られるものと考える。
今後の対応方針	**（小課題１）輸出に関する研究** ○研究資源の状況をみつつ実施を検討する。 **（小課題２）知的財産・ブランドに関する研究** ○産地及び流通・消費現場での取組事例の実態調査を進め、実態を踏まえた成功要因の分析を行う。また、消費者評価の分析については、条件の違いを踏まえて分析を深化させる。